

製品名: StIp1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18388**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	93kDa

抗原情報

遺伝子名	ELP2
別名	ELP2; STATIP1; Elongator complex protein 2; ELP2; SHINC-2; STAT3-interacting protein 1; StIP1
遺伝子 ID	55250.0
SwissProt ID	Q6IA86
免疫原	抗血清はヒト ELP2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 771-820

背景

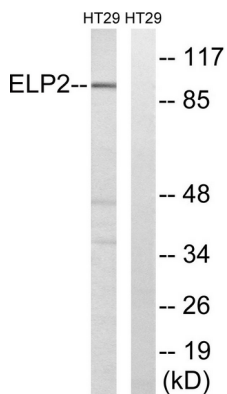
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、RNA ポリメラーゼ II と会合するヒストンアセチルトランスフェラーゼ複合体である

エロンゲーター複合体の中核サブユニットです。ヒストンのアセチル化に加えて、コードされるタンパク質は転写伸長にも影響を与え、クロマチンのリモデリングを助ける可能性があります。[RefSeq 提供、2016年5月]、機能: RNA ポリメラーゼ II (Pol II) ホロ酵素のヒストンアセチルトランスフェラーゼ構成要素である RNA ポリメラーゼ II エロンゲーター複合体のサブユニットとして機能し、転写伸長に関与します。エロンゲーターはクロマチンリモデリングにおいて役割を果たし、ヒストン H3、そしておそらくは H4 のアセチル化に関与していると考えられています。、機能: STAT3 のリガンド依存性活性化を制御します。、類似性: WD リpeat ELP2 ファミリーに属します。、類似性: 14 個の WD リpeat を含みます。、サブユニット: RNA ポリメラーゼ II エロンゲーター複合体 (エロンゲーター) の構成要素であり、IKBKAP/ELP1、STIP1/ELP2、ELP3、ELP4、そして未だ同定されていない2つのタンパク質 (p30 と p38) で構成されています。エロンゲーターは、Pol II の最大サブユニットの C 末端ドメイン (CTD) と会合します。STAT3 および JAK と相互作用します。、

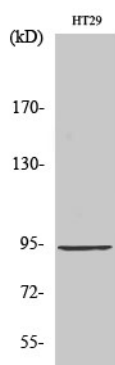
研究分野

熱ショックタンパク質、シグナル伝達、タンパク質輸送、シャペロン、その他のシャペロン

画像データ



ELP2 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Stip1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析